

## 実験の概要

期間：令和元年6月1日～8月1日

場所：①武蔵境自動車教習所    ②豊島自動車練習所  
 ③平和橋自動車教習所    ④茨城県運転免許センター（茨城県交通安全協会が実施）

対象：以下の内訳のとおり、合計282人の被験者を分析の対象とした。

		人数		
		男性	女性	計
70～75歳未満		76	21	97
75歳以上	第1分類	3	1	4
	第2分類	26	5	31
	第3分類	57	18	75
80歳以上	第1分類	9	1	10
	第2分類	20	6	26
	第3分類	35	4	39
全体		226	56	282

※ 今回の実験の分析では、年齢を免許証の有効期間が満了する日（誕生日の後）の年齢で統一した。

※ 被験者の最高齢は、男性が90歳（2名）、女性が89歳（1名）であった。

## 実車指導の実施課題

- ・現行のチャレンジ講習における課題(特別課題・参考課題を除く。)を実施
- ・違反状況等の指導やドライブレコーダーを活用した個別指導を挟み、全部で課題を3回実施し、それぞれの違反状況等をチャレンジ講習に準じて評価(違反の回数等を記録・採点)

総走行距離	1,200m	信号通過	1回以上
周回カーブ	2回以上	横断歩道の通過	1回以上
指定場所における一時停止	1回以上	曲線コースの通過	1回
右折	1回以上	屈折コースの通過	1回
左折	1回以上	方向変換	1回

※ 被験者のうち3名(74歳男性、75歳女性、78歳女性)は、運転が15~20年ぶりであり、運転が怖いなどの申出があったため、2回目及び3回目の実車走行を実施しなかった。

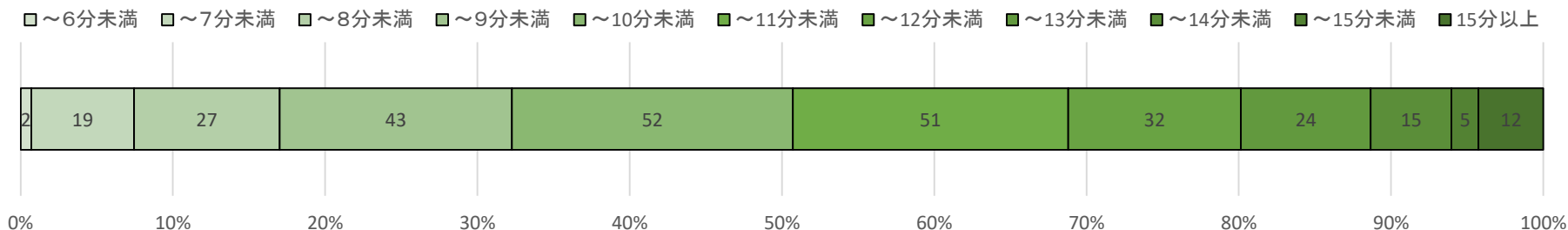
※ 被験者のうち2名(72歳女性、78歳女性)は、1回目及び2回目の実車走行で長時間を要したため、3回目の実車走行を実施しなかった。

## 実車走行に要する時間

1回目の実車走行に要する時間は 平均10分14秒であった。

※ 実験コースの混雑状況によって課題までの待ち時間が異なるため、必ずしも運転技能の程度を示す時間ではない(実際に教習等を実施している走行環境において、必要となる時間を測定するために集計したもの)

※ 最短は5分30秒(72歳男性)、最長は21分3秒(78歳女性)であった。



# 実車走行実験で行われた違反の態様

・実車走行実験において、以下の違反を行う被験者が認められた。

<他の車両等に特に危険を生じさせる違反>

- 信号のある交差点で、信号に従わない【信号無視】
- 交差点で右左折をした後などに、道路の右側を通行する【右側通行】
- 指導員がブレーキを操作しなければならない危険な状態となる【補助ブレーキ】

<課題を最後まで完走できない>

- 曲線コース、屈折コース、方向変換等で、切り返しを4回する【通過不能】  
※ 個別指導を実施する前（1回目）の実車走行では282人中6人

<適切な車両の操作ができないことによる違反>

- 曲線コース、屈折コース、方向変換等で、脱輪した後1.5m以上走行する【脱輪大】
- 曲線コース、屈折コース、方向変換等で、障害物やポール等に接触する【接触大】

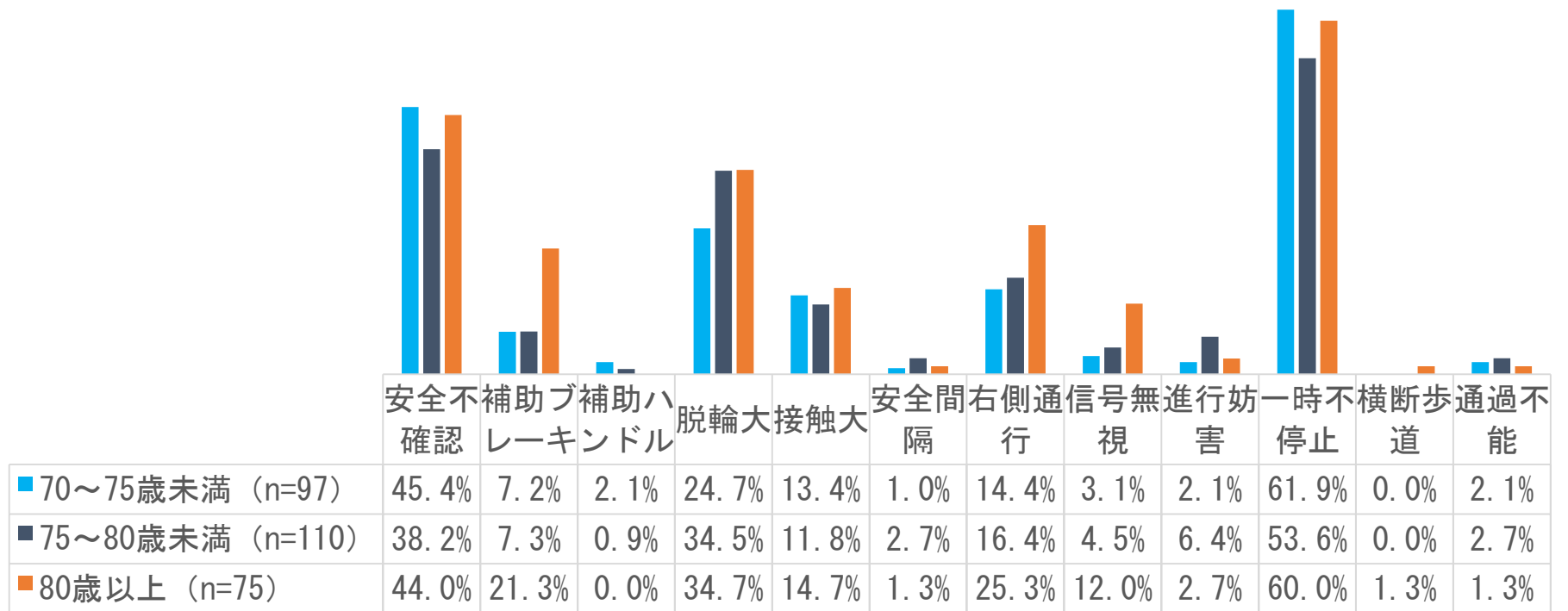
<安全のために必要な措置を講じない違反>

- 一時停止の指定場所で、適切に停止しない【一時不停止】
- 発進、後退等をする際など走行中に、適切な安全確認をしない【安全不確認】

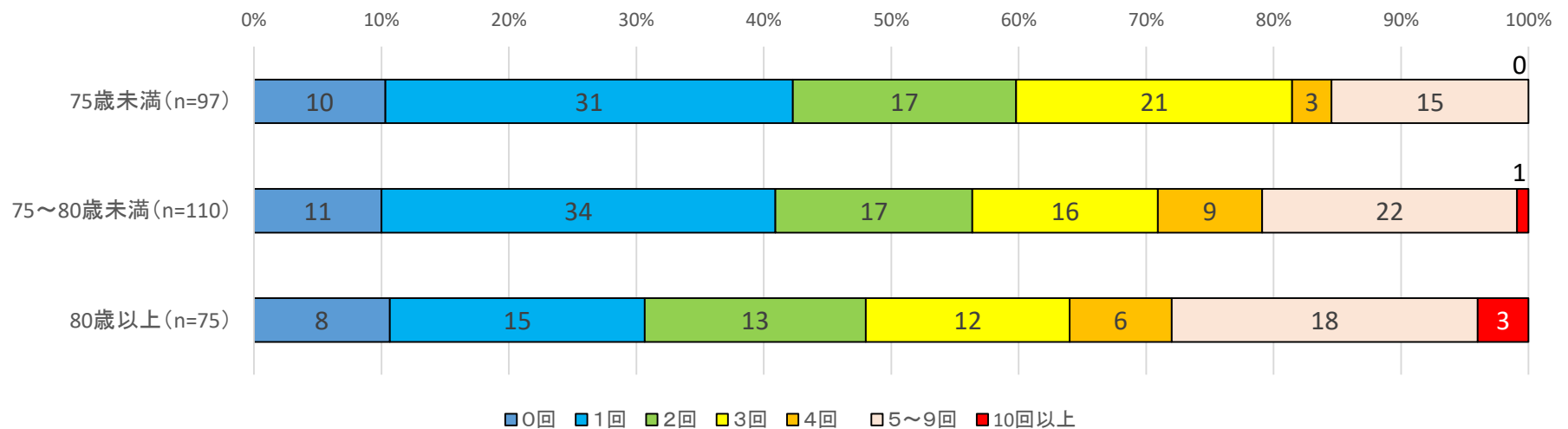
・他方、チャレンジ講習における減点項目のうち、以下の違反をする者は比較的少なかった。

- 指導員がハンドルを操作しなければならない危険な状態となる【補助ハンドル】
- 歩行者又は軽車両の側方を通過する際に、十分な間隔を保たない【安全間隔】
- 交差点等で、車両等の通行を妨害する【通行妨害】
- 歩行者が横断歩道に立ち入ることが予測される場合に、適切に停止しない【横断歩道】

## 違反を1回以上行った者の割合(違反の種類別)【実車走行1回目】



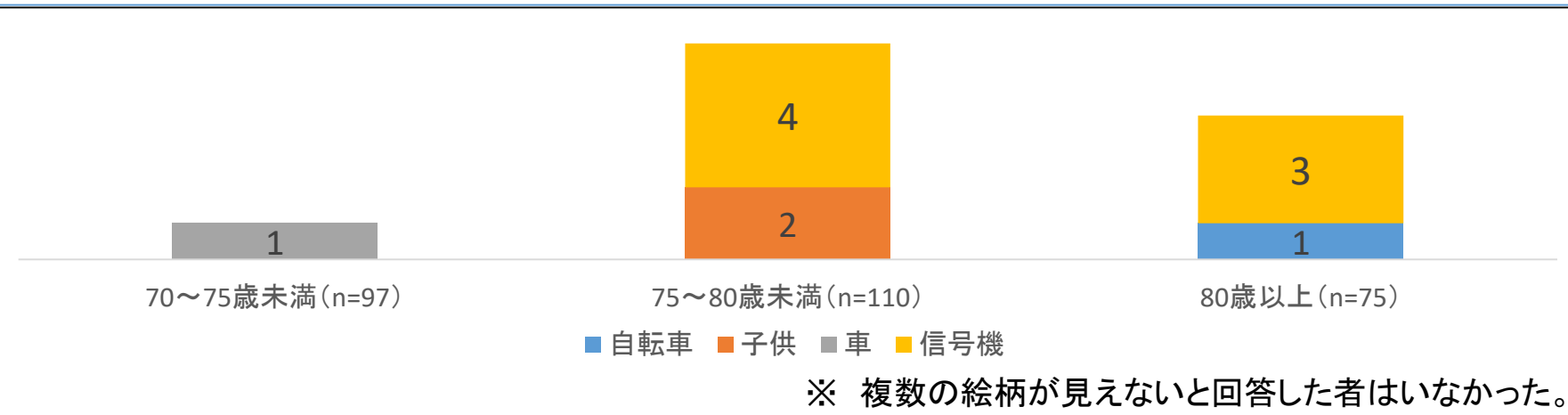
## 違反を行った回数別の人数【実車走行1回目】



# 実車走行以外の調査結果

## クロックチャート検査結果

クロックチャートを実施した結果、被験者282人のうち、見えない絵柄があると回答した者は11人（3.9%）であった。



なお、クロックチャートの結果で見えない絵柄があった者について、水平視野の結果を比較したものの、顕著な差は見られなかった。

### 水平視野(被験者282人全員)

	右眼	左眼	両眼
最大値	100	100	190
最小値	47	54	108
平均値	82.8	82.8	165.6
中央値	85	85	168

### 水平視野(見えない絵柄がある11人)

	右眼	左眼	両眼
最大値	94	94	188
最小値	61	55	118
平均値	84.5	81.8	166.4
中央値	90	84	176

時間や場所の見当識についての質問を口頭で行った結果を見ると、第1分類や第2分類の者は、75歳未満や第3分類の者と比較すれば正答率が低いものの、多くの者が正答している。したがって、口頭による質問のみでは、現行の認知機能検査を代替することはできないと考えられる。

質問事項		年齢	何年か	何月か	何日か	何曜日か	都道府県	市区町村	施設名
75歳未満 (97人)		97.9%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	99.0%	91.8%	97.9%
75歳 以上	第1分類 (14人)	78.6%	78.6%	100.0%	85.7%	78.6%	100.0%	57.1% (※)	78.6% (※)
	第2分類 (57人)	87.7%	96.5%	100.0%	100.0%	100.0%	98.2%	89.5%	96.5%
	第3分類 (114人)	93.0%	100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	100.0%	93.9%	100.0%

※ 第1分類のうち11人(79%)は茨城県免許センターで実施した被験者であるが、被験者全体(282人)における「市区町村」の正答率は、実験の実施場所ごとに

- 茨城県免許センター:71%、 ●武蔵境自動車教習所:90%、 ●平和橋自動車教習所:94%、 ●豊島自動車練習所:99%
- であるため、認知機能ではなく実施場所による影響が考えられる。

同様に、「施設名」の正答率についても、茨城県免許センターで実施した被験者の正答率は90%、その他教習所で実施した被験者の正答率は99%であるため、実施場所による影響が考えられる。